

「みんな違ってそれでええ。」—谷津田の長老・フクロウのつぶやき—

語り 谷津のフクロウ

わしは長いことこの谷津田に住んでおるが、最近じゃあ、好物のネズミも、めったに口にできない。食べるものだけでなく、居心地のいいねぐらとなる木も少なくなっとるんじゃ。昔はここの山にも木がたくさんあったが、一山全部、木が切られてしまい、そのかわりに人間の住む家が立ち並んだというわけじゃ。

それでもわしが住むこの谷津田は、細々と暮らすには十分じゃ。「農家」と言われる谷津田で米作りをしているじいさま、ばあさまが田を耕してくれているおかげじゃ。

田んぼがあるからカエルは卵を産める。わしにとってそのカエルも好物じゃが、カエルを食べるベビはもっとうまい。夏だけこの谷津田にやってくるサシバやアオバズク、冬にやってくるノスリなどとはエサの奪い合いじゃ。やつらに言わせると、他の場所と比べると、この谷津田にはエサとなるベビやカエル、小さな鳥がたくさんいるらしい。やつらが毎年のように遠い国からここにやってくるのは、住み心地がいいからに違いない。

そうそう、久々にネズミを口にできたんで、食べずに見逃したニホンアカガエルと話をゆっくりしたんじゃ。水がしみでてくる谷津田は、冬でも田んぼに水があるおかげで、卵を産める……と言っておった。そう言われりゃ、夏ごろ林に登ってくるニホンアカガエルが、氷が張ってるような2月ごろに田んぼに戻っていくのを見かけたことがあるのお。最近じゃあ、冬に水を張っていない田んぼもあるようじゃが、あれじゃあ、トンボのヤゴもメダカもドジョウも冬を越すことができないじゃろう。

谷津田のように常に水がしみ出てくるような田んぼは、深くて米を作るには面倒らしいが、メダカやドジョウらにとっては最高の住み処じゃ。そんな田んぼで今でも米作りしてくれるじいさまがいることにカエルは感謝しておった。

わしは、田んぼの水面とやらを見たことがないが、水の中には、目には見えないようなミジンコやらミドリムシやらのプランクトンがたくさんおるらしい。それを食うタニシやカワニナ、ヨコエビ、オタマジャクシ……そして、それらを食う、ザリガニ、メダカ、ホトケドジョウ、ホタルの幼虫、ヤゴ……、そしてそれらを食う、アオサギ、シラサギ、カワセミ……というように命がつながってるんじゃなあ。

それだけではないぞ。米が実れば、それを食うバッタやカメムシ、ゾウムシといった困ったムシもくるらしいが、カマキリやカエル、たくさんの種類のクモたちが田んぼで待ち構えて、やつらを食う。米をねらってネズミやスズメもたくさんおる。だからわしは田んぼがあるおかげで、エサにありつけるわけじゃ。

だが、谷津田のような水がわいてくるような田んぼは、手間がかかると耕作をしなくなってるらしい。そんな休耕田は、ネズミや小さな鳥たちの隠れ家となっているのをわしは知っておる。最近じゃあ、圃場整備とやらで、田んぼの水はけをよくして、大きな機械が入るようにしたんで、たくさんの米が実っておるから、スズメたちもエサに困らない。このように、水がしみ出るような田んぼがあったり、整備された田んぼがあったり、耕作していない田んぼがあったり、手入れされた林があったりといろいろあるから、谷津田が成り立っておるんじゃ。



イラスト：松下薫美子

そうじゃ、この間、まぬけイタチがおった。イタチはすばしっこくてなかなか、わしらの前には姿を出さん。イタチは食べごたえがあるんで、いつも狙っとるんだか、なかなか捕まえられんのじゃ。だが、この間は、田んぼで作業しとった人間が休憩してるのに気付かず、人間の脇にひょっこり姿だしとるんじゃ。そりゃ、人間はびっくりしとった。昼間はわしは眠いもんじゃから、捕まえようなんて気にならんかった。よほど、腹が減ってエサを探しに出ていったんか、わしらに捕まらんよう人間のそばにおったのかもしれないお。イタチらにとっても、人間や耕作された田んぼは、なくてはならんもんなんじゃなあ。

さいごに田んぼに必ずおるトンボについても話ししておこう。田んぼを耕すじいさんも「昔は空が一面まっ赤になるほどのアカトンボが飛んでいた」と言っておった。稲の実った黄金色の田んぼとまっ赤なアカトンボ。そりゃあ、林から見ても、とてもキレイな光景じゃった。アカトンボが減ってしまったわけはよくわからん。「農薬」という稲を害虫から守る薬が原因と言うが、それだけじゃないらしい。

アカトンボは夏の間、林にエサを探しにくるんじゃが、人間の住む家ばかりで十分にエサが捕れないと言っておった。ほかにも秋に卵を産みに田んぼに戻っても、稲刈りのために田を乾かしてしまう田んぼに卵を産めないとも言っておった。いろんな条件が違ってしまふことが原因で、アカトンボが減ってしまったと言えるのかもしれないお。

それから、トンボというとアキアカネやナツアカネといったアカトンボを思い浮かべるじゃろうが、ほかにもたくさんの種類のトンボがいるんじゃ。池に産卵するコシアキトンボ、きれいなわき水に産卵するオニヤンマ、水草のくきに産卵するのはギンヤンマやホソミオツネントンボ、大きな水路や川で生活するカワトンボ……まだまだ、いろんな種類のトンボが谷津田にはおるんじゃ。田んぼだけでなく、さまざまな水環境があるこの谷津田にはたくさんの種類のトンボが生活できるというわけじゃ。

田んぼの米を人間が食べ、田んぼにさまざまな環境があるからわしらたくさんの生きものが生きていける。たとえ、機械や薬を使っていたとしても、田んぼさえあればわしらは食べていくことはできる。だが、耕作を止められてしまつては、わしらは食べていくことができなくなってしまう。ここの田んぼが全部、休耕田になってしまつたら、わしら田んぼのまわりの生きものたちは生き長らえることはできんじゃ。何も同じにせんでええ。いろんな環境に適したそれぞれの生きものがそこに住みつくのじゃ。

田んぼを昔から守ってくれているじいさま、ばあさまには感謝、感謝じゃ。いろんな環境を大事にしてくれとる人間がいることに感謝じゃ。

(通訳： 松下 恵美子)

谷津田いきもの図鑑 No. 55

オオジシバリ

春の谷津は黄色い花が多いのですが、その中でも花が大きくて田んぼの畦でよく目立つのがオオジシバリです。一見、タンポポのように見えますが、花びらの数が少なく、タンポポのように花の付け根の緑色の部分（総苞）が膨らまずスリムです。種はタンポポと同じで白い綿毛を付けていて風に乗って遠くまで飛んで行きます。茎が地面をほうように広がって、ところどころで根を地面に下ろしてまるで地面を縛るように見えることから「ジシバリ（地縛り）」と名付けられました。庭や畑など比較的乾燥したところに生える別種のジシバリよりも葉や花が大きいのでオオジシバリと呼ばれ、湿ったところが好きな植物で、下大和田や小山では谷津田の畦でよく見かけます。また、ジシバリは葉が丸いのに対してこちらは細長いへうのような形であることから見分けは簡単です。



黄色い大きな花はタンポポと共に田んぼの畦でよく目立ちます
(2012.04/30 小山の谷津にて)

(高山邦明)



里山たんけんレポート

第147回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2012年4月1日(日) くもり/晴れ

昨日の荒天から一転おだやかな日になりました。スタート場所では2羽のセグロセキレイ、ホオジロ、キジの声がしていました。カワセミが小川の縁の葦にとまった瞬間モズに追い払われ逃げて行きました。歩き出して間もなく近くの枝先でホオジロが囀りだしました。気温も上がってきて越冬したルリタテハ、キタテハ、アカタテハが飛んではとまり、飛んではとまっています。ナナホシテントウも、ヤマカガシも冬眠から覚めて出てきました。田んぼではメダカが群れ、オオタニシ、コシダカヒメモノアラガイが目につきました。網にスジエビも入りました。タネツケバナはたんぼの中で咲き誇っていました。米の種籾を水に浸す時期に咲くと言うのでこの名があると言います。私たちの田んぼの種籾も今日水に浸します。タチツボスミレ、フデリンドウ、アマナなどはまだ花は見られませんでした。季節の巡りは随分遅れているようで開花植物は13種が見ただけでした。このところの陽気で一齐に咲きだすことでしょうか。(観察会終了後、山の上の広場へ行ったところ、日当たりの良いところでタチツボスミレが2輪だけ咲いていました。

(参加者 大人5名; 報告: 網代春男)

第132回 下大和田 YPP「苗代づくり」

2012年4月7日(土) 晴れ

今年の米づくりが始まりました。新たな米づくり講座の参加者を迎え、まず、谷津田を一巡、谷津田の現状を見ると共に春の谷津田を体感しました。

さあ、作業開始です。コシヒカリ、農林1号、緑米、黒米、赤米の5種類の種籾を蒔きます。小さな子どもさんも赤ちゃんを背負ったお母さんも頑張って苗床にパラパラと種籾を蒔きました。蒔いたあと籾を手の平でペタペタ浮き上がらないように押さえました。



蒔き終えたところでお昼、お弁当の時間です。

午後から子どもは遊びの時間、山でブランコをしたり小川でメダカやザリガニ取りに興じました

大人は苗床にシートをかけてトンネルづくりです。保温と鳥の食害を防ぎます。半円形の割いた竹を苗床をまたいで土中に刺しその上にビニールシートをかけ、上から押さえの紐をかけてビニールシートの端を泥中に埋めて完成しました。

5月5日の田起こしの時には苗床は緑のシュータンになっていることでしょうか。楽しみですね。

(参加者 大人19名、高校生3名、小学生9名、幼児6名; 報告: 網代春男、写真: 田中正彦)

第77回 小山町 YPP「田んぼの手入れ」

2012年4月22日(日) 小雨

当初は14日に予定されていたのが、雨で順延になりましたが、この日も時折、小雨が降るあいにくの天気。参加者は常連メンバーだけでしたが、今年も米づくりに向けて、畦や水路の整備をしました。やせ細った畦には田んぼから泥を上げて補強。モグラの穴から水漏れしているところは穴をたどってつぶして塞ぎました。縦横無尽に穴をあけているモグラの活発さには困るものの、感服です。畦ではシュレーゲルアオガエルの産卵がはじまっていて、時折、白い泡の塊がありました。作業の時は丁寧に場所を移してあげました。大きなメスの上にオスが乗ったシュレーゲルの姿も目撃しました。

ウグイスの声に励まされながら作業をしましたが、最後は強くなる雨に追われるように撤退しました。田植えまでにはもう少し畦の手直しが必要そうです。



雨の中、水の取り入れ口の補修作業

(参加者: 大人5名、小学生1名、幼児1名; 報告: 高山邦明)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 4月 9日 アカハラがさえす。アズマヒキガエルのオタマジャクシが孵化（高山）。
- 4月 13日 桜が満開（金谷）。
- 4月 18日 裸麦出穂。シュレーゲルアオガエルが一日中大合唱（金谷）。
- 4月 22日 シュレーゲルアオガエルの卵塊を確認。孵化していないアカガエルの卵塊がまだある（高山）。
- 4月 30日 斜面林でウワミズザクラやサンショウが咲く。カワセミが忙しく行き来していた（高山）。

下大和田

- 4月 6日 アズマヒキガエルのおたまじゃくしが生まれていた（金谷）。
- 4月 18日 ニホンカワトンボ、シオヤトンボが出現。ニホンカワトンボは未熟な濃緑色の身体だった。シオヤトンボも羽化したばかりの金色に見える翅で弱々しく飛び出した（網代）。
- 4月 24日 アズマヒキガエルのおたまじゃくしが二、三センチになっていた。シュレーゲルアオガエルの卵を今春初確認。裸麦出穂。イヌヒエは十センチくらいに（金谷）。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPP のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第 134 回 下大和田 YPP「田植え」

緑の色濃くなる谷津でコシヒカリと古代米の田植えをします。谷津を渡るさわやかな風を感じながら気持ちの良い汗を流しましょう。小さなお子さんも参加できますので、みなさんでいらして下さい。

日時： 2012年5月19日（土）：予備日20日（日） 10:00～15:00 小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00（JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円）

持ち物： 弁当、飲み物、長靴（長め、できればホームセンターで販売している田植え用長靴）、軍手、敷物など。

参加費（資料代等）： ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催： ちば環境情報センター 共催： ちば・谷津田フォーラム

▼第 149 回 下大和田 6月の谷津田観察会とごみ拾い

生きものが元気な季節です。ホトトギスの大きな声も谷津に響いているでしょう。初夏の谷津田を巡ります。

日時： 2012年6月3日（日）観察10～12時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田（下大和田 YPP に同じ）

集合： 下大和田 YPP に同じ

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主催： ちば・谷津田フォーラム 共催： ちば環境情報センター

▼第 79・80・81 回 小山町 YPP「田植え」

いよいよ田植えです。コシヒカリと古代米を植えます。たくさんの田んぼがありますので、3日間の作業日を設定しましたので、ご都合のつく時にお気軽に参加ください。

日時： 第79回 2012年5月20日（日）

第80回 2012年6月2日（土）

第81回 2012年6月10日（日） いずれも10:00～12:30、小雨決行

場所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）

持ち物： 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主催： ちば環境情報センター

編集後記 4月に入っても例年より気温が低い日が続いたため、月の半ば過ぎになってようやく春の畦を彩る植物が咲きそろいました。小山では下旬に入ってもまだ孵化していないニホンアカガエルの卵塊があり、産卵が記録的に遅かったようです。それでも月末になって気温が上がり、地元の方の田植えもいつもどおりに終わったようです。私たちの田植えはこれから。みなさんのお力添えをよろしくお願いします。

（高山 邦明）